



大学共同利用機関法人 人間文化研究機構  
国際日本文化研究センター

International Research Center for Japanese Studies

2016  
概要



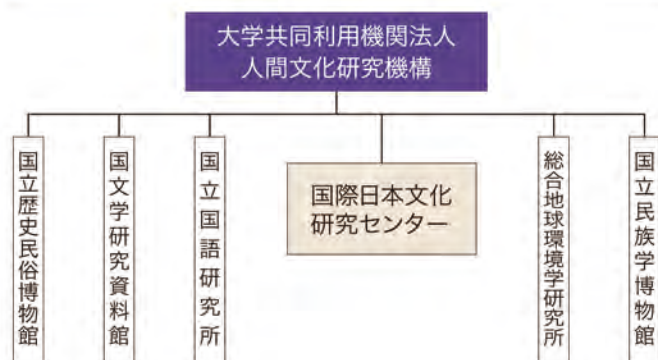
## ■ 日文研とは

国際日本文化研究センター（以下、日文研）は、日本文化に関する国際的・学際的な総合研究と世界の日本研究者に対する研究協力・支援を行うことを目的として1987年に設置されました。

日文研は、日本の文化・歴史を国際的な連携・協力の下で研究するとともに、外国の日本研究者を支援するという大切な使命をもった大学共同利用機関です。この使命を推し進めるために、国内外から参加する多様な専門領域の共同研究員による、分野横断的な日本文化に関する研究を展開しています。

また、海外から人文・社会科学等の諸分野の研究者を招いて最新の成果や情報に基づく自由で創造的な研究活動を行うとともに、その情報を発信するなど、日文研は、日本研究の国際的拠点としての役割を担っています。

## ■ 組織



## ■ 日文研の役割

1. 日文研は、国際的・学際的・総合的な観点から、日本文化に関する研究課題を設け、国内外から参加する様々な分野の研究者による共同研究に取り組んでいます。
2. 共同研究は、研究域・研究軸という枠組みのもとに、柔軟な組織・運営により推進しています。
3. 世界各地の日本文化の研究者・研究機関に、研究情報を発信するとともに、実情に応じた研究協力を行っています。
4. 研究成果は、和文・英文による図書・学術雑誌、講演会、シンポジウムなど様々な形で広く国際社会に提供しています。
5. 総合研究大学院大学文化科学研究科国際日本研究専攻・博士後期課程では、次代の研究者養成に努めています。また、国内外の大学院生・留学生を受入れて指導しています。

# ■ 教員一覧

(2016年5月現在)

## ■ 所長

小松 和彦

文化人類学、民俗学、口承文芸論

## ■ 副所長

稲賀 繁美

比較文学比較文化、文化交流史

## ■ 教授

荒木 浩

日本文学

磯前 順一

宗教研究

伊東 貴之

中国思想史、日中比較文学・思想

井上 章一

建築史、意匠論

牛村 圭

比較文学、比較文化論、文明論

大塚 英志

まんが表現史、まんが創作論、近代文学史

倉本 一宏

日本古代史

瀧井 一博

国制史、比較法史

坪井 秀人

日本近代文学・文化史

バトリシア・フィスター

日本美術史

ジョン・ブリン

日本の近世・近代史

細川 周平

音楽学、日系ブラジル史

松田 利彦

日朝・日韓関係史

山田 奨治

情報学、文化交流史

劉 建輝

日中比較文学、比較文化

## ■ 准教授

磯田 道史

日本史学

榎本 涉

日本中世史

郭 南燕

日本近代文学、東西文化交流

楠 綾子

日本政治外交史、安全保障論

フレデリック・クレインス

日欧交渉史、科学史

佐野 真由子

外交史・文化交流史、文化政策

森 洋久

情報工学

マルクス・リュッターマン

中・近世の日本社会史、文化史、古文書学

## ■ 助教

石川 肇

日本近代文学

北浦 寛之

映画学

## ■ 特任助教

石上 阿希

近世文化史

古川 綾子

日本芸能史

## ■ 顧問

梅原 猛



## 所蔵資料



### 図書館

日本研究に必要な各種資料を幅広く収集し(図書資料約51万冊)、国内外の研究者の利用に供するとともに、様々な情報を提供しています。利用者は図書を自由に手にとって閲覧することができます。外部の方でも、学術研究・調査等を目的とする場合であれば、事前申請のうえ閲覧が可能です。



オルテリウス  
「日本諸島図」



七福神：明治十六年略暦

### データベース

日文研は、所蔵する日本研究資料、所員の研究成果をはじめ、他機関所有の日本研究資料などのデータベースを作成しており、現在49種類をウェブで公開しています。



データベースの一例

## 活動

### 研究活動

#### 個人研究 基礎研究 共同研究

日文研の中心活動は共同研究であり、国際的観点から研究テーマを設定し、国際的・学際的な体制のもとに総合的に研究を行っています。この活動の中で成果を世界に向けて発表する機会として「国際研究集会」があり、この集会は世界各地の日本文化研究者との交流の場としても位置づけられています。

### 研究協力活動

#### 国際研究協力

海外の日本研究機関との共催等により「海外シンポジウム」などの国際的研究協力活動を実施しています。「日文研フォーラム」や研究会形式の各種セミナーなど、発表と交流の場を提供し、その他さまざまな研究支援を実施しています。

#### 情報の収集・整理・提供

収集する主な情報には次のようなものがあります。

- ・ 外国語で書かれた日本研究図書
- ・ 日本研究関連の文献目録及び映像・音響資料
- ・ 海外における日本研究者・研究機関に関する情報

これらの情報はデータベース化され、多目的な検索システムにより、迅速にアクセスすることができます。

### 普及活動

#### 研究活動の成果の出版

『日本研究』、*Japan Review*、『日文研叢書』、*Nichibunken Monograph Series*、『国際研究集会報告書』などを出版しています。

#### 広報誌の出版

『日文研』、*NICHIBUNKEN NEWSLETTER*などを出版しています。

#### 一般市民への発信

学術講演会、公開講演会、日文研フォーラム、一般公開、日文研・アイハウス連携フォーラムなどを開催しています。

## 共同研究

### 2016年度 共同研究一覧

(2016年5月現在)

研究課題	研究代表者
戦後日本文化再考	教授 坪井 秀人
浪花節の生成と展開についての学際的研究	客員教授 真鍋 昌賢
戦争と鎮魂	教授 牛村 圭
画像資料（絵葉書・地図・旅行案内・写真等）による 帝国域内文化の再検討	教授 劉 建輝
説話文学と歴史史料の間に	教授 倉本 一宏
3.11以後のディスカール／『日本文化』	外国人研究員 ミツヨ・ ワダ・マルシアーノ
日本の舞台芸術における身体 ——死と生、人形と人工体	外国人研究員 ボナヴェントゥーラ・ ルベルティ
比較のなかの東アジアの王権論と秩序構想 ——王朝・帝国・国家、または、思想・宗教・儀礼——	教授 伊東 貴之
万国博覧会と人間の歴史	准教授 佐野 真由子
多文化間交渉における『あいだ』の研究	教授 稲賀 繁美
差別から見た日本宗教史再考 ——社寺と王権に見られる聖と賤の論理	教授 磯前 順一
植民地帝国日本における知と権力	教授 松田 利彦
明治日本の比較文明的考察——その遺産の再考——	教授 瀧井 一博
マンガ・アニメで日本研究	教授 山田 奨治
日本語の起源はどのように論じられてきたか ——日本語学史の光と影	客員教授 長田 俊樹
投企する古典性——視覚／大衆／現代	教授 荒木 浩



最近の日文研出版物



第59回学術講演会

## 2015年度 活動の記録

2016年度の活動についてはお問い合わせ下さい。

\*は一般の方の参加が可能なものです。

### 活動一覧

2015年 4月	日文研フォーラム*	日本をめぐる認識変容 ——高度成長期から「失われた20年」を通じて
	日文研・アイハウス 連携フォーラム*	ぼくは何故、「まんがの描き方」を海外で教えるのか
5月	日文研フォーラム*	蒋介石の日本像
6月	学術講演会*	オランダ商館長の将軍謁見 「天は球いか平たいか」 ——地動説理論と佐田介石(1818-82)との格闘——
	日文研フォーラム*	火の女神と神になった男 ——16世紀の井戸茶碗を中心に——
	海外シンポジウム	失われた20年と日本研究のこれから
7月	日文研フォーラム*	おんなもの——日本の伝統芸能における「女性」の登場とその表象をめぐって
	日文研・アイハウス 連携フォーラム*	伊藤博文を越えて、伊藤博文へ ——「知の政治家」の残したもの
9月	学術講演会*	春画を見る、艶本を読む——近世から現代まで 「松島詩子コレクション」について ——戦前ジャズ・タンゴ歌手の興行
	日文研フォーラム*	何でそんなに愛され、そんなに憎まれるのか ——文学キャラクターとしてのスサノオノミコト
	シンポジウム	民謡研究の今日
10月	日文研フォーラム* 一般公開*	法と教養と文化の基礎——田中耕太郎にならって
11月	海外シンポジウム	失われた20年と日本社会の変容
	日文研フォーラム*	鉄道から見た東アジアの歴史
	シンポジウム	ドイツにおける日本文学の研究
	シンポジウム	鎮魂・翻訳・記憶——声にならない他者の声を聴く
12月	日文研フォーラム*	日中両国はどう付き合うべきか ——王正廷の「王道・霸道」論から考える
	日文研・アイハウス 連携フォーラム*	世界文学としての「源氏物語」
	国際研究集会	万国博覧会と人間の歴史
	公開講演会*	アジアの万博
2016年 1月	日文研フォーラム*	日本美術に見るユーモア ——河鍋曉斎の動物戯画と暁斎が笑った明治の西洋化
2月	シンポジウム	CM研究の展開と発展：日文研共同研究からの10年
	日文研・アイハウス 連携フォーラム*	イタリア演劇から見た日本の伝統演劇 能、歌舞伎、オペラ、バレエ——「狂乱」ものを中心に——
	シンポジウム	海賊・山賊・馬賊・愚連隊：無法者outlawの社会史にむけて——竹村民郎著作集を参照点として
	日文研フォーラム*	ロシア文学における日露戦争の記憶 ——「日本」の表象を中心に
国際研究集会		「心身/身心」と「環境」の哲学——東アジアの伝統的 概念的再検討とその普遍化の試み——
	シンポジウム	翻訳の再評価：学問を深める原動力
	3月	日文研フォーラム*
学術講演会(退任 記念講演会)*		吉田・鳩山・岸の時代——1950年代の日本外交 神々は出雲に帰る——「邪馬台国」と「水底の歌」に及ぶ

## 交通案内



### 阪急桂駅（西口）から

- 京都市バス「西5」「西6」で約30分
- 京阪京都交通バス「20」「20B」で約20分
- タクシーで約15分

### JR桂川駅から

- ヤサカバス「1」「6」で約30分
- タクシーで約20分
- JR桂川駅までは、JR京都駅から大阪方面行き（普通）に乗車約5分

### JR京都駅（烏丸中央口）から

- 京阪京都交通バス「21」「21A」「26」で約45分

バスはいずれも「桂坂中央」行き、「桂坂小学校前」又は「花の舞公園前」下車で徒歩約5分

